

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立下呂特別支援学校

学校番号

118

自己評価

学校教育目標	地域社会で主体的に生活する力を育てる ～一人一人の障がいの状況や特性に応じた教育活動を通して、 個々のもてる力（個性）を高め、生きる力を育む～
--------	---

評価する領域・分野	保護者、地域との連携
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・高等部は、ふるさと学習の一環として開校時より和太鼓に取り組んでおり、地域でのイベントに参加し、演奏を行っている。 ・昨今の社会情勢の中で、PTA 活動について様々な意見がなされているが、障がいのある児童生徒が地域社会で自分らしく生活をしていくためには、一番の支援者である保護者間のつながりは重要である。 ・保護者の PTA 活動に対する意識が高く、平日の PTA 活動についても半数以上の参加がある。 ・保護者、学校運営協議会委員を対象とした学校評価アンケートの「地域の方々や小、中、高等部間の交流活動を適切に計画し、特色ある教育内容を工夫している。」については、「あてはまる」「ややあてはまる」を合わせて98%の状況である。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>保護者や地域、関係機関との連携、情報共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者間の交流の場を持続して確保できるように、形態や組織を保護者と共に確立する。 ・地域や保護者からの認知度の高い行事や活動を学校の伝統として継続していけるよう体制を確立する。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・渉外部やキャリア教育部が中心となり、保護者が参加しやすいPTA 活動、保護者研修会を実施する。 ・高等部やキャリア教育部が中心となり、長年行ってきた地域での活動を持続し、発展できるよう工夫しながら実施する。
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の参加のしやすさを考慮し、各種委員会活動を一日に集約し、年3回の活動を行う。 ・高等部の生徒数の減少や地域の様々なニーズに対して対応を工夫しながら、和太鼓演奏等を継続して行う。 ・より多くの地域の人に認知してもらえる作業製品バザーの在り方を考え実施する。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA 活動など保護者が学校での活動に無理なく参加し、交流を深める機会を提供できたか。 ・地域の様々な要請に対して過度な負担にならないように工夫し、参加することができたか。 ・より多くの地域の方に当校の職業教育について理解していただける機会が設定できたか。
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・各種委員会活動を一日に集約して、保護者の都合がつく時間帯に参加することができるようにし、多くの会員の参加を募ってきた。その取組を県PTAの大会で発表することを通して効果を確認することができた。 ・休日の地域イベントでの太鼓演奏を部活動として生徒の自由参加としたが、多くの保護者から協力が得られ、盛大に演奏を行うことができた。

	・作業製品バザーでは、地域の福祉事業所と連携することで250名程度が来校し、作業製品を購入していただいた。
評価の視点	評価
①PTA 活動に多くの保護者に参加いただき、交流を深めることができたか。	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
②生徒数の減少やイベント主催者のニーズや会場の状況に応じながら無理のない太鼓演奏の実施ができたか。	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
③地域の方に参加していただき、当校の教育活動と生徒の理解へとつながる作業製品バザーとなったか。	A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
成果・課題	総合評価
○保護者同士の交流として持続可能な範囲で継続していけるよう活動を工夫して行うことができた。 ○生徒の数や実態の変化があっても、その年代の生徒達はその年の良さを生かした太鼓演奏を行うことができている。 ▲その年代に合った太鼓演奏に向けて指導方法や取り組み方の検討は必要である。 ▲保護者が交流し、協力関係を構築していく意義や学校として職員でない立場で児童生徒を支援していただきたいことを訴え、積極的な参加を呼び掛ける必要がある。	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
来年度に向けての改善方策案	・持続可能な行事の在り方を模索し、伝統として無理なく引き継いでいけるよう今後とも工夫していく必要がある。 ・小中学部における地域との連携や今後の進路を見据え、段階的な作業製品バザーの参加について検討を行う。 ・チラシなどを活用した PTA 活動の保護者への丁寧な説明に心掛ける。

学校関係者評価 （令和8年2月2日実施）

意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> ・PTA 活動を工夫しながら継続している点は大変に素晴らしい取組である。 ・太鼓演奏で地域の福祉事業所のイベントを盛り上げている。卒業生である利用者と交流することもでき、今後もこのような関係を続けるとよい。 ・中学部から部活動で和太鼓の活動を始めており、高等部での活動に向けてよりスムーズに和太鼓に取り組むことができると思う。 ・高等部のバザーについて、地域の方より参加してとてもよかったという評価を聞いている。今後も地域に参加を呼び掛けていきたい。 ・作業製品バザーは、規模が大きく盛大になり、楽しさが増える一方で、多くの来場者が集まることによる安全面のリスクも生じてくる。今後は、安全対策についても十分に検討していく必要がある。 ・読み聞かせの授業を参観し、子どもたちが本に親しむことの大切さを改めて感じた。地域の読み聞かせサークルの方から地元の民話や昔話を教材にしてもらえると、この地域の歴史文化に親しみがもててよい。